

第51回藤沢市地産地消推進協議会議事録

- 1 日 時 2022年（令和4年）3月24日（木）
午後2時～午後3時40分
- 2 場 所 藤沢市役所本庁舎5階 5-1, 5-2会議室
- 3 出席者 (1) 委員 14人
ア 会場での参加
北会長、高橋副会長、湯澤委員、金井委員、青柳委員
林委員、齋藤委員、友田委員、佐藤委員
イ オンラインでの参加
大嶋委員、山崎委員、加瀬委員
(途中参加)
山田委員、太田委員
(2) 事務局 10人
中山経済部長
(農業水産課)
及川課長、安部川課長補佐、鈴木課長補佐、
福岡上級主査、中村主査、藏野主査、相原主任、
落合主任、三本職員
- 4 傍聴者 なし

【第51回藤沢市地産地消推進協議会】

事務局
(安部川)

それでは、定刻となりましたので、ただいまから第51回藤沢市地産地消推進協議会を開催させていただきます。

本日司会を務めます農業水産課の安部川と申します。

よろしくお願いいたします。

なお、本会議につきましては、新型コロナウイルス感染症対策として、会場とオンラインでの参加を併せて会議を開催させていただきます。

○会議中についてのお願いになります。

- ・換気のため、ドアを開放させていただきます。
- ・マスクについては、会議中においても着用していただきますようお願いいたします。
- ・マイクについては、その都度、除菌させていただきます。

○次に、会議中のご発言についてでございますが、会場の方につきましては、挙手をしていただき、事務局職員がマイクをお届けしますので、マイクを使って名前を名乗っていただいてからご発言くださいますようお願いいたします。

オンラインでの参加の方につきましては、zoomの「手を挙げる」機能を使用させていただきますようお願いいたします。なお、発言の際はゆっくり、はっきりと発言していただきますようお願いいたします。

本日の会議につきましては、19名の協議会委員の内、オンラインでの参加者3名 会場9名、合計12名の方が出席しております。藤沢市地産地消推進協議会規則第5条に規定する会議成立要件の過半数を超え、会議が成立しておりますことをご報告させていただきます。

また、本日ご都合により欠席の方がございますのでご報告いたします。

- ・ 藤沢市畜産会から選出の和田委員
- ・ さがみ農業協同組合組織経済部販売課ファーマーズマーケットわいわい市藤沢店から選出の大矢委員
- ・ 江の島片瀬漁業協同組合から選出の北村委員
- ・ 藤沢市漁業協同組合から選出の葉山委員

次第裏面の11番の横浜丸中青果株式会社湘南支社の山田委員につきましては、Zoomでご参加になります。少し遅れるというご報告を事前にいただいております。その他、太田委員と西委員が来てはいますが後ほど参加になるかと思っておりますのでよろしくをお願いします。

2 議事録の確認

事務局
(安部川)

はい。それではですね、次第5議事録の確認に移らせていただきます。第50回、藤沢市地産地消推進協議会の議事録を既に送付しておりますが、修正箇所等はございますでしょうか？

よろしいでしょうか。それでは、修正が無いようですので、第50回藤沢市地産地消推進協議会の議事録を確定させていただきます。なお、議事録につきましては、市民相談情報課に提出をして、市民の閲覧の対象となりますので、ご承知おきください。

次に、本日の議題に入ります前に、まずお手元の資料の確認をさせていただきます。

事前に送付させていただいている資料として、

- ① 次第（裏面は名簿）
- ② 資料1 「藤沢産利用推進店認定状況について」
- ③ 資料2 令和4年2月藤沢市議会定例会
建設経済常任委員会における報告の概要について

④資料3 第5期藤沢市地産地消推進計画について

⑤資料4 令和3年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業計画書2022年（令和4年）3月24日時点進捗状況

⑥資料5-1 令和3年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支予算書 2022年（令和4年）3月24日時点

⑦資料5-2 令和3年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支予算内訳（2022年（令和4年）3月24日時点執行状況

⑧当日の資料6 藤沢市地産地消推進事業実行委員会「3部会」名簿

となります。

なお、当日の資料5-1と5-2を事前にお送りさせていただいておりましたが、差し替えとなります。資料につきましては、会場にご参加の方につきましては本日机の上に置いていただいておりますので差し替えの方をお願いいたします。オンラインでの参加の方につきましては、メールで送らせていただいておりますのでそちらの方をご確認いただきますようお願いいたします。

また、当日の配布資料といたしまして、資料6藤沢市地産地消推進事業実行委員会3部会名簿になります。

なお、机の上には閲覧用として、第4期藤沢市地産地消推進計画を置かせていただいておりますので、必要な時にご覧いただきますようお願いいたします。

資料について不足等ございませんでしょうか。

また、本日の会議につきましては全て議題を公開としておりましたが、傍聴者はおりませんでしたことをご報告させていただきます。

それではここからの進行につきましては、北会長にお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

5 議 題

北会長

それでは、早速、議題に入らせていただきますが、本日の会議の記録を作成する関係上、発言内容を録音させていただいておりますので、あらかじめご了承をお願いいたします。

なお、ご発言される委員には、職員がマイクをお届けしますので、マイクを使って名前を名乗っていただいてからご発言くださ

いますようご協力をお願いいたします。
オンラインでの参加の方につきましては、zoomの「手を挙げる」機能を使用させていただきますようお願いいたします。

それでは、「議題(1) 藤沢産利用推進店の進捗状況について」、事務局から説明をお願いします。

事務局
(藏野)

農業水産課の藏野と申します。よろしくをお願いいたします。
着座にてご説明させていただきます。

「議題1 藤沢産利用推進店認定状況について」ご説明をさせていただきます。お手元の資料1をご覧ください。

1ページの「1 藤沢産利用推進店の認定について」でございますが、藤沢産利用推進店の認定申請がありましたので、藤沢産利用推進店認定要綱に基づき、次の日程で認定審査を行っております。

2の審査会の日程でございますが、11月24日に開催した第6回審査会につきましては、前回の協議会でご報告をさせていただいておりますので、本日の協議会では、3月2日に開催した第7回審査会についてご報告をさせていただきます。

4ページにお移りいただきます。(6)第7回審査会では、ひとキュン2店舗の認定審査を行い、基準を満たしていたため、認定としております。

店舗の詳細については、表をご覧くださいと思います。

次に、5ページにお移りいただきまして、「3 登録店舗数及び廃止について」をご覧ください。

(1)登録店舗数の表では、2022年3月2日の審査会後の登録店舗数を反映させたものでございます。表の一番右の欄の、グレーで表示されております一番下の年度末登録数をご覧ください。

3月2日現在、登録店舗数はひとキュン68店舗、ふたキュン33店舗の、合計101店舗となっております。

次に、6ページにお移りいただきます。こちらは、年度末登録数と新規登録数をグラフにしたものと、登録ランク数の割合をグラフにしたものでございます。

ア. 年度末登録数と新規登録数の関係につきましては、昨年度と比較し、3月2日時点で令和2年度末の101店舗と同数となりました。新規登録数は令和2年度が今年度に比べ10件多く申請いただきましたが、その分昨年度は廃止が10件多くなっており、結果、現時点での認定店舗数が同数となったものです。

今年度の101店舗の内訳といたしまして、イの表をご覧ください。今年度はふたキュンが33店舗で前年比+3店舗の増となっており、年々ふたキュンの店舗数が増加している形となっております。

続きまして、7ページをご覧ください。こちらは、今年度の廃止店舗について記載しております。前回の会議から特に変わりなく、廃止店舗数は合計16店舗となっております。詳細は割愛させていただきます。

8ページ以降につきましては、登録店舗数の一覧となっております。登録しております101店舗の情報について記載がしてありますので、ご覧いただければと思います。

なお、今年度の更新申請の手続きにつきましては、1月下旬に、各店舗に更新手続きの文書を送付いたしまして、店舗からの回答をいただいた後の3月下旬に認定審査会を開催する予定でございます。議題1の説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

北会長

ありがとうございました。

ただいま、事務局から説明がありましたが、ご質問やご意見などがございましたらお願いします。

(質疑等) とくになし

北会長 それでは、続いて「議題（２）第５期藤沢市地産地消推進計画
について」、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 「議題（２）第５期藤沢市地産地消推進計画について」ご説
(安部川) 明申し上げます。

着座にて説明をさせていただきます。

はじめに、資料２をご覧ください。

「令和４年２月藤沢市議会定例会建設経済常任委員会におけ
る報告の概要について」になります。

１月２４日に開催をいたしました協議会で確認させていただ
きました計画（最終案）を基に、議会への報告を行い、４人の
方から質疑があり、質疑と答弁の内容をまとめたものとなりま
す。質疑につきましては、「パブリックコメントについて」や
「アンケート調査に関すること」、「若者への地産地消の取組
について」、「ＣＳＡ（地域支援型農業）について」、「地産
地消等に関するＰＲについて」のご意見がありました。詳細に
つきましては、ご確認いただきますようお願いいたします。

次に、資料３をご覧ください。こちらにつきましては、第５
期計画の確定版となります。１月２４日からの主な変更箇所
でございますが、４４ページをご覧くださいませでしょうか。目
標１の藤沢産米の使用数量についてでございますが、１月時点
では、新米の日として、農業水産課が関わり学校給食に藤沢産
米を供給していた量を記載しておりましたが、それとは別にあ
いごも米として藤沢産米が学校給食に供給されているため、そ
の回数及び数量を追加させていただきました。なお、５年間で
１５回２６，４００kgを増やすという目標設定については変更

しておりません。また、その変更に合わせて、数量設定の考え方についての注釈を追加しております。それ以外につきましては、数値等最新にもものに変更させていただいたり、若干文言追加や表現の見直し等をしてしております。変更箇所につきましては、網掛けをしておりますので後ほどご確認をお願いいたします。

なお、本日配布させていただいているものを確定版として、現在、業者に製本を依頼しているところになります。3月末に納品となりますので、納品がされましたら、計画に携わっていただいた委員の皆様、関係団体等へ配布を行うとともに、HP等により周知をしてまいりたいと考えております。

以上で、「議題（2）第5期藤沢市地産地消推進計画について」に関するご説明を終わらせていただきます。よろしくをお願いいたします。

北会長 ご説明ありがとうございました。ただいま、事務局から説明がありました。委員の皆様からご質問やご意見などがございましたらお願いします。変更点はごくわずかでございますが、皆様いかがでしょうか。

（質疑等） とくになし

北会長 それでは、これで確定版ということでご了解いただければと思います。

最後に、「議題（3）その他」になりますが、委員の皆様、事務局から何かありますでしょうか。

（質疑等） とくになし

以上をもちまして藤沢市地産地消推進協議会の本日予定していた議題はすべて終了いたしました。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

事務局
(安部川)

ありがとうございました。
これをもちまして第51回藤沢市地産地消推進協議会を閉会とさせていただきます。

令和3年度第3回藤沢市地産地消推進事業実行委員会

1 開会

事務局
(安部川)

引き続き、令和3年度第3回藤沢市地産地消推進事業実行委員会に移らせていただきたいと思います。
北委員長議事進行よろしくお願いたします。

2 議題

北委員長

それでは、「議題（1）藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業進捗状況について」、事務局から説明をお願いします。

事務局
(福岡)

はい。農業水産課福岡と申します。着座にてご説明いたします。

資料4になります。

こちらは、前回2022年令和4年の1月24日時点の進捗状況をご説明させていただきました。今回は、本日3月24日時点の進捗状況ということで、前回と変わったところをご説明いたします。まず1ページ目2地産地消実行委員会の予算を伴う事業についてでございます。

一番のイベントへの参加実施というところで、地産地消イベント事業、みなと春マルシェになります。

みなと春祭りの代替イベントということになりまして、こちらのイベントで、農畜水産物の販売を行い、農畜水を一体としたイベントを開催し、藤沢産農水産物に対する理解を深めるとともに、地産地消の推進を図ることを目的として行いました。こちらは3月13日の日曜日片瀬漁港市民交流広場で行いまして、来場者数が2794人（延べ人数）の方が来場されました。また、ガラポン抽選などを行いまして、盛り上げました。写真の様子が当日の様子でございます。

続きまして4ページでございます。

オ市役所本庁舎等における花きのPRで8月と12月実施ということですがこちらは今月（3月）も行いまして、現在市役所本庁舎等において入り口のところでございますが、花きのPRを行っております。また1階の受付にも、お花を飾っております。

続きましてカPR用動画の作成でございますが、こちら2月に、藤沢産サンセットマルシェの様子を撮影して、編集をして、3月18日にYouTubeにて公開をさせていただきました。

資料の説明が全て終わりましたら後ほどYouTubeを流させていただきますと思います。

続きまして5ページです。

キ果樹直売所用ダンボール作成でございますが、さがみ農協藤沢市果樹部と連携して、藤沢産ロゴマーク入りのダンボールを作成し、藤沢産果樹のPRを行うというところですが、こちらは、果樹直売所用ダンボールの版代に対して地産地消推進事業実行委員会で負担をさせていただいております。

続きまして、5ページの（2）藤沢産農水産物等の学校保育園給食供給強化でございます。

ア学校保育園周辺で生産されている農産物の活用でございますが、2021年12月6日から10日の間で行いましたが、また今年の2月14日に、またの保育園にて、キャベツと大根と小松菜を使用したふじさわランチを実施しました。

資料の4につきましては、説明は以上でございます。

続きまして資料の5-1で、令和3年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支予算書のご説明をさせていただきます。

こちらは、前回2022年令和4年1月24日時点の執行状況をご報告させていただきました。今回は、本日時点の執行状況をご報告させていただきます。

前回と変わったところがございますが、

支出の部、地産地消イベント事業みなと春マルシェ

執行状況22万1745円でございますが、これに、会場設営費を6万7100円を後日お支払いをする予定でございます。

普及啓発費

藤沢産利用推進店PR用食べ歩きマップの作成、現在作成をしておりまして、まもなく納品をされてくる予定でございます。こちらは9万2455円を支払う予定でございます。

続きまして、PR用の動画の作成費でございますが、こちら後ほどご覧になっていただきますが、20万9000円を3月中にお支払いをする予定でございます。

次は予備費でございますが、

さがみ農協藤沢市果樹部と連携し、直売所用ダンボールの版代を作成させていただきます。こちら18万1500円をお支払いする予定でございます。

資料5-2につきましては資料の5-1と合わせてご覧いただければと思います。

事務局
(安部川) ZOOMの有償ライセンスが全部埋まってしまっていて、無償のものでZOOMの実施をさせていただいておりました、40分でZOOMが1回切れてしまうような形で会議が進行しております。一旦ZOOMに入り直しさせていただいて動画を流して会議を進行してもよろしいでしょうか。

北委員長 要するに、少し待つということでしょうか。

事務局
(安部川) はい。お待ちいただいてZOOMに入り直します。

ZOOM参加後、動画上映

事務局
(福岡) このような動画を、3本ほど作成させていただきました。おいしい藤沢産のホームページからも本日から見られるようになっております。よろしければご覧ください。
事務局からは説明は以上になります。

北委員長 はい、ありがとうございました。ただいま、事務局から説明がありました。ご質問やご意見などがございましたらお願いします。

佐藤委員 ユーチューブの動画ですが、長すぎず、短すぎず良かったと思います。今後もこういった取組を、幅を広げて行っていかれると思いますが、次年度もこういった活動を取り組まれるのか質問いたしました。

北委員長 事務局いかがでしょうか。

事務局 (安部川)	はい。4年度以降の実行委員会の事業につきましてはこれからご検討いただくことにはなりますが、新たな周知方法としてYouTubeを開設させていただきましたので、来年度以降も引き続き、直売所の情報だったり生産者の情報、藤沢産農水産物の情報を伝えていきたいと考えております。
北委員長	他にはいかがでしょうか。
湯澤委員	資料4の7ページで地産地消講座3回ほど実施していますが、申し込み人数がかなり多く参加したいということですが、コロナ禍の中で参加者をかなり絞ったのかなという風にみえています。ただ、藤沢市の中で果樹にしても野菜にしても農家数はかなりいます。一農家に頼るのではなくて、複数の農家をお願いして回数を増やして参加者を増やしていければいいなと思っております。また、果樹や野菜だけでなく、水産とか他の分野も検討していただければと思います。
北委員長	ありがとうございました。いかがでしょうか。
事務局 (安部川)	はい。今の講座につきましては、今までの収穫体験型講座につきましては収穫したものを、調理して食べるというところまで実施をしておりましたが、なかなかコロナ禍で、調理して食べるというのが難しいということで収穫体験ということで切り替えて実施をさせていただきました。切り替えて実施したことにより、こういうコロナ禍ということもありまして、応募者がかなりいらっしゃいましたので、令和4年度は、9回に増やした中で実施をしていきたいと考えております。実施する品目につきましても、これだけ多くの方が参加し、応募していただいております。

りますので、例えばサツマイモとか、そういう多くの方が参加できるような品目だったりとかあとは有機野菜を収穫する体験を作ったりとかそういう様々な機会を作れるようにしてまいりたいと考えております。講座の回数につきましては、令和4年につきましては3回から9回に増やしていく予定でございます。

北委員長 3回から9回に増やすということで組数なんかも増えますがそのあたりはいかがでしょうか。

事務局
(安部川) まずは3回から9回に増やさせていただきまして、またその状況を見ながら講座の回数等については検討してまいりたいと考えています。

北委員長 組数が増えるとやり方を考えないと数が合わなくなると思います。

事務局
(安部川) はい。先ほどのサツマイモとかであれば畑一面使っているということで農家さんと事前にご相談しておけば、かなりの人が参加できると思いますので、そういったことも踏まえてより多くの方に参加していただける講座としていきたいと思っております。

北委員長 ありがとうございます。そういう方向の取り組みよろしく願いいたします。他にはいかがでしょうか。

林委員 先ほどの湯澤委員の意見に賛成で、市民のみなさまは参加してふれてみてやっ自分事になるのが現状で、より多くイベントが開催されるといいと思います。

続いて、私の質問ですが1ページ目のみなと春マルシェですが、私もこの前参加させていただきました。すごく盛り上がっていました。フェイスブックで周知をしていたと思いますが、いいね!の回数もチェックしているのですがたしか30前後だったと思います。この数字が多いのか少ないのか、他の自治体で同じようなイベントを行った時にどうなのか比較されてますか。

北委員長 事務局いかがでしょうか。

事務局 (安部川) 比較自体はしていないのですが、藤沢市民の人数を考えると、もう少しいいね!をしていただけるような形で実施をしていければとは思っているので、今後につきまして情報発信の方法につきましても、この協議会の中でご意見をいただいた中で、YouTube等を利用して市民の皆様にも有益になるような情報を発信して、いいね!をより多くしていただけるような取り組みにしていきたいと考えています。

林委員 もちろん見ているだけで、いいね!を押さなかった人もいると思います。いいね!の人たちはすごいファンの方だと思いますのですごく心強い。そういう人たちをゲットして、具体的に何十いいね!をとるということを目標としたり、今回素敵なユーチューブの動画も作成したので、ユーチューブの閲覧数も目標値をたてて、どれくらい再生されたかということをしつかりデータ化しておくといいなと思いました。

北委員長 事務局よろしいでしょうか。

事務局
(安部川) はい。そこにつきましては、データを取りながらより多くの方が視聴していただいたりいいね！をしていただけるような形で進めてまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

北委員長 林委員よろしいでしょうか。

林委員 はい。

北委員長 それでは、続いて「議題（２）今後の実行委員会の取り組みについて」、事務局から説明をお願いします。

事務局
(福岡) はい。福岡です。
資料6 藤沢市地産地消推進事業実行委員会「3部会」名簿をご覧ください。この名簿につきましては皆様の要望をふまえて暫定的ではございますが、部会毎に分けさせていただきました。本日話し合いをしていただきますが、部会を変更したい方がいらっしゃるようであれば事務局へご連絡くださいますようお願いいたします。なお、例年話し合いについては部会毎のグループに分けて行いますが、今回はZOOM参加者もいらっしゃいますので時間を区切って10分程度で話し合いをさせていただければと思います。重点的に取り組む施策3つと長期的に取り組む施策に分けて話し合いをさせていただければと思います。それでは、進行につきましては北委員長お願いいたします。

北委員長 はい。皆様名簿の所属する部会をご確認いただいて、41ページ第5期計画の重点的に取り組む施策の藤沢ブランドの創出についてご意見等ございましたらお願いいたします。

事務局からポイントとなるようなご説明いただけますか。

事務局
(安部川)

はい。藤沢ブランドの創出につきましては、新たな製品の創出というのを、一番の目標に掲げていてそれを最終的には、かながわブランドへ登録していきまして、藤沢産農水産物をもっと周知していく、PRしていくということを掲げております。

その中で41ページですね、具体的な取り組みのア藤沢ブランドとなる新たな一次製品の創出、イといたしまして藤沢産農水産物を利用した加工品の開発、あと未利用魚の認知度向上というのがありますので、そういった視点の中でこういったもの、こういった製品について新たに創出していったら、いいかというようなご意見がもしありましたら、委員の皆様からご意見いただければと思います。こちらにつきましては、来年度に入りましたら、まずは、神奈川県技術センター等々もご意見の方を意見交換をさせていただいて、生産者、JA、漁協も含めた中で取り組みを検討していきたいと考えておりますので、委員の皆様からこういった品目について新たにやったらいいんじゃないかっていうようなものがありましたらご意見としていただければと思います。よろしくお願い致します。

北委員長

みなさまいかがでしょうか。

湯澤委員

市内で実際に登録されている品目は何件かいらっしゃると思います。ここに記載のあるトマト、キャベツ、ぶどうというのはあるのですが、お米といったざっくりとしたものはない。お米そのものは品目として登録はないですか。

事務局 (安部川)	現段階では藤沢のものとしては、登録はありません。
湯澤委員	<p>神奈川県では奨励品種として「はるみ」がある。</p> <p>この際、藤沢でも生産量を増やしてはるみを筆頭にブランドとして登録していてもいいが、ハードルはあるのか。少人数、小面積でも登録可能なのか色々な条件があるのかわからない。ブランド化の条件を教えてください。</p>
北委員長	ブランド化の要件等含めてお答えいただけますか。
佐藤委員	今の湯澤委員のご意見はかながわブランドの認定基準ということでしょうか。
湯澤委員	イコールふじさわブランドということであればそれで結構です。
佐藤委員	<p>今の計画だと、かながわブランドに登録していくということが目標ということで話をさせていただきます。生産量・生産者集団等一定のまとまりで同じ条件で栽培されているということが認められないと認定は難しいということで加工とかからめて基準が結構ある。見直しとかもある。そういった状況については、今日手持ちの資料がないので、しっかり調べてこういう機会にお伝えしていきたいと思います。ただ、なんでもかんでもいいというのはならない。県の認定なのでいろいろなところで作っているものを特定の場所だけブランド化するととなると難しい部分がでてくる。その部分は、こういった取組もあるため、情報を集めて県庁のほうにも確認をとっていくので少し時</p>

間をいただければと思います。

北委員長 この部分は、計画を作る際かながわブランドとふじさわブランドのすみわけについては、いろいろと議論した経緯がありますよね。ふじさわブランドがかながわブランドに包括されるのかあったかと思いますが。

事務局
(安部川) そうですねまずはですね、藤沢産農産物をPRする一つとして、神奈川ブランドへ登録をして、それを通じて藤沢産農水産物を知っていただく機会を作ろうということで、かながわブランドへの登録というのを目標にさせていただいております。かながわブランドへの登録といたしまして、基本要件として組織的生産体制の確保ということで、消費者ニーズに的確に対応し生産および販売対策に、組織的に取り組んでいる品目であることだったりとか、商品に関する信頼性の確保というようなところとかそういったものが一定程度確保されているものであれば、要件をクリアするものであれば登録をしていけるというようなことが、要件としてありますので、そこにつきましては神奈川県の方と相談をしながら、今登録されてない品目につきましては、新たに登録していけるようにしていくのと、あとは新たな産品を創出したときにつきましても、その品目についての登録というのを今後検討していきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

北委員長 湯澤委員いかがでしょうか。

湯澤委員 はい、わかりました。

北委員長	<p>おそらく議論した時に、かながわブランドの標識とふじさわブランドの標識の大きさが違う。小さくてもブランドにしてもいいのではないかといった議論だったと思います。その辺考慮しながら進めていく必要があるのかなと思います。</p>
事務局 (安部川)	<p>そうですね。またその辺につきましては、協議会の方でもご報告をさせていただきながら、ご意見を踏まえて検討していきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
高橋副委員長	<p>今のブランドの話で、ブランド化するとシールなんかも張りますか。</p>
事務局 (安部川)	<p>神奈川ブランドに登録されますと登録ブランドのシールがあるみたいですのでそういったものも登録されれば活用していければとは思っています。あと、藤沢産のものにつきましては、藤沢産ロゴマークシールというものを作成しまして、それを農作物や商品の方に入っていていただいて、藤沢産であることをPRしているものもありますので、その辺のすみ分けを今後どうしていくのかというのは検討していく必要があるのかなとは思っております。</p>
高橋副委員長	<p>計画の中の藤沢ブランドの創出のところですが、お米にも藤沢産のブランドシールを張っている農家がある。シールを張る時になにか指導しているのか。このシールは購入しているのか。</p>
事務局 (安部川)	<p>藤沢市が藤沢産ロゴマークシールというものを藤沢産農水産物をPRするために作成しておりまして、そちらのシールにつきましては、無償で配布をさせていただいております。</p>

どういったものに貼っていただくかといいますと、農水産物そのパッケージに直接貼っていただいてもいいですし、加工品とかに貼っていただくというような形で今、無償でお渡しをしているということになります。

高橋副委員長 自分のところで作ったお米に張っても構わないということですか。

事務局 (安部川) はい。藤沢で生産されたお米を販売するにあたって、そのシートを使いたいということであれば、農業水産課の方に申請をしていただければ、シールをお渡しさせていただきますので、貼っていただくことはできます。

高橋副委員長 はい。

北委員長 シールが欲しい場合は、農業水産課にとりにいくということで、シールはたくさんありますか。

事務局 (安部川) はい。毎年作成はしておりますので、今のところは十分足りるかなと。来年度につきましてもその部分の予算につきましては増額しておりますので、今の人数より使う方が多くても対応はできるかとは思っております。

北委員長 それでは、次に、43ページの藤沢産農水産物等の学校・保育園給食供給強化についてご意見等ございましたらお願いいたします。簡単にポイントの方もご説明お願いいたします。

事務局
(安部川)

2番の、藤沢産農水産物等の学校保育園給食供給強化につきましては、具体的な取り組みといたしまして、ア～オを設定させていただいております。アの藤沢産米の利用の促進につきましては、先ほどもご説明をさせていただいたのですが、新米の日ということで農業水産課が関わりまして、年5回実施をしております。それ以外にアイガモ米というものを2回使って、約12,000キロを使用しているような状況ですが、まだまだそれでも、使用の頻度としては少ないということもありまして、学校給食、JA、生産者と協議をして、来年度以降については今の4倍から5倍の使用量を使えるような形で、供給体制の見直しを図っているところになりますのでこちらにつきましては来年度から始まる事業になりますので、状況については、協議会の中でまたご報告をさせていただければと考えております。イの藤沢産農水産物の利用促進につきましても、45ページに、使用数と割合等の記載させていただいておりますので、こちらにつきましても、全体の利用率、使用割合が上がっていくような形を、今後関係機関と協議しながら進めさせていただくということで考えております。ウとエにつきましては農水産業の理解促進、食育等を推進したり、家庭において藤沢産農水産物を知っていただく機会を作っていくたいというところがありますので、この辺について委員の皆様からどういうことを行っていくたいのではないかとというようなご意見等をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。オにつきましては第3期第4期計画から継続している学校保育園の近くの農水産物をその学校なり保育園で使用していただくという取り組みを、第5期計画でも継続していきたいというところで考えていますので、こちらにつきましても今モデル校として小学校4校、保育園として1園を設定しておりますので、そのモデル園等を増や

していけるのかというようなものも含めながら検討していきたいと考えているところになります。

北委員長 はい、ありがとうございます。このような状況でございますが、委員の方々ご意見いかがでしょうか。

北委員長 お米については、有機栽培のアイガモ米を増やしていくということですか。

事務局
(安部川) アイガモ米につきましては、生産されている生産者が限られていますので、そこを増やすというのはなかなか難しいかなと思いますので、有機栽培ではなくて通常に栽培されている藤沢産のお米で、品種につきましては、「はるみ」ですね、そちらを学校給食保育園給食で使用していきたいということで考えております。

北委員長 アイガモ米は2回分追加するといった話でしたね。すみません、間違えました。
学校給食の情報発信ということはいかがでしょうか。

事務局
(安部川) 情報発信といたしましては、各学校で給食だよりにて献立等を作っています。そういったところで藤沢産農水産物を使用しているときはその生産者の情報や藤沢産農水産物の情報を発信していただいているというところがあります。学校によっては、学校のホームページ等に給食等の写真を掲載させていただいて、その中でもPRをしていただく。あと小学校につきましては、各学校に栄養士がいますので、栄養士から具体的に藤沢産農水産物のことを説明していただくなどの対応をしております。

す。その他に学校によっては、生産者を招いたり、児童が圃場に行って生産者から説明を聞く機会なども作ったりしております。そういった中で、周知や藤沢産農水産物を理解していただく機会というのを作っています。

北委員長 ありがとうございます。今現状をお話しいただきましたが、他にご意見いかがでしょうか。

佐藤委員 私の子も藤沢で給食を食べていて色々と状況は知っていますが、給食を食べて食べたものを買ってみようとか、こどもの時に食べたものは大人になっても覚えていて、こういったことで、こどもが大きくなっても食べていく流れはいい。あとはこういった機運や学校給食のストーリー性のあるものを組み合わせていくといい。こういったことを活動展開していくに向けて意識していくといいと思いました。

北委員長 この農水産物をストーリー性に結びつけて情報発信していくというのは有効な方法だと思います。他にいかがでしょうか。

林委員 45ページの発注単位がキログラムの品目で野菜と果物とあとお米が使われていると思いますが、魚とか豚肉とかは学校給食でどれくらい使われているというのは状況どうでしょうか。

事務局 (安部川) 水産物については、以前はしらす、わかめが使われていたのですが、今現在はしらすのみとなっております。

豚肉等については、学校給食で使われるというのが難しい状況ですがやまゆりポーク生産協議会というのがございまして、こ

の協議会が、毎年市内の学校に寄贈していただいているという取組をしております。豚肉等につきましては価格等の問題もございまして、なかなか使うのも難しい状況ですが学校給食課とそこについても連携して協議しながら、市内の畜産物で豚肉や牛肉を1回でもいいから使っていただくような機会を作っていきたいと考えております。

林委員 やまゆりポーク協議会が寄贈するのは一つの学校にだけ1回ということですか。

事務局
(安部川) そうですね。年に1回一つの学校だけになりますので、それを毎年各学校で実施をさせていただいて、そこにあわせて県の方とか生産者の方が来て、畜産の講義もしている状況です。学校給食につきましては令和2年度で38品目の品目が給食で使用されています。

林委員 1校というのはどういう風に決まるのか。積極的に手をあげてくる小学校はあるのか。

事務局
(安部川) 学校の選定につきましては毎年学校給食課と協議をして、学校給食課で選定していただいております。

林委員 少し不公平な感じがしますが。

事務局
(安部川) 今現状としては、そういう状況になっておりますので、先ほどお話をいただいたとおり全学校で1回でもいいので、そういう市内の豚肉や牛肉を使っていただく機会というのを今後作っていければとは考えています。

林委員 北陸のほうだとカニが学校給食で出たり、子供たちもすごく楽しんでる。そういうことがあればいいと思います。

北委員長 加瀬委員これに関してご意見等いかがでしょうか。

加瀬委員 はい。今のお話を伺って、本校は非常に地産地消の食材を使わせていただいています、先ほどご紹介いただいたように、給食だよりとか、学校だよりとかですね、またホームページの方で、地産地消の野菜等の紹介を積極的に行わせていただいております。PTAにも地産地消教育について報告させていただいている状況です。

北委員長 林委員いかがでしょうか。

林委員 はい。わかりました。

北委員長 なかなか補えないところはあるかもしれませんが、積極的な利用というのは必要だというご意見だと思います。

(ここでZOOMが40分で切れる。入り直しのため、5分ほど一旦休憩)

北委員長 湯澤委員の質問がありますので、湯澤委員いかがでしょうか。

湯澤委員 先ほどの林委員の質問において年1回学校で豚肉を出しているということですが、1回の量というのはどのくらいでしょうか。あと、牛肉を過去に使われたことはありますか。

事務局
(安部川)

やまゆりポークの使用量については、30キロ前後で、部位については、その学校でどんな給食を出すかによって部位については選べるという状況です。

牛肉については、学校給食ではなかなか単価も合わないというところでできていなかったのですが、コロナ禍の中で、神奈川県での取り組みで、市内産、県内産の牛肉を学校で、牛肉だけじゃないですが、牛肉や水産物を使っていこうという取組がありまして、その中で藤沢市につきましては、一度牛肉を使わさせていただいております。その時は、やはり子供たちもすごい喜んでいたという話は聞いております。牛肉はなかなかそういう状況なので普段は使えていない状況です。

先ほどの豚肉の話ですが、学校給食課とお話したときは、やまゆりポークを丸々1頭買っていただかないと、提供というのがなかなかできないというようなお話もありまして、そういう買い方になってしまうと、学校給食の担当としても、調理がなかなか難しいということで、1度協議はしたんですけど、そこで断念してしまったことがありますので、そこについては何か別の方法がないかというところについて、今後協議をしていければと思います。

北委員長

なかなか豚肉丸々1頭を買うというのは大変だと思います。今の話は、調理上の問題で丸々1頭の購入が難しいということですか。

事務局
(安部川)

そうですね。給食は、学校で同じものを提供していくというところがありますので、そういったところの中で、なかなか難しいというようなお話で1回止まっていますので、その購入・流通のさせ方とか、購入の仕方が何か別の方法が取れるのであれば

ば、学校給食でも使っていくということが検討できるかもしれないので、その辺はもう少し、学校給食課と検討させていただければと思います。

北委員長 それでは、次に、47ページの地産地消の普及啓発・食育施策との連携強化まででご意見等ございましたらお願いいたします。簡単に事務局でご説明お願いいたします。

事務局
(安部川) 簡単にご説明をさせていただきます。こちらはイベント・講座を充実させた中で、地産地消の普及啓発と農水産物への理解を深めていきたいというものになります。

具体的な取組みとして、アからオがあります。アにつきましては、イベント・講座というコロナ禍で新しい生活様式に応じたイベント・講座を開催していく必要がありますので、どういったイベント・講座を開催していくことが効果的なのか、ご意見いただければと思います。

ウのところになりますが、食育・健康施策との連携がございまして、市の健康づくり課とレシピコンテストを開催することを考えておりますので、こちらにつきましても話が決まってきた段階で、協議会にはご報告させていただければと思います。

未来を担う若い世代への普及啓発につきましては、若い世代へどのような形で周知していけば効果的なのか、委員の皆様からご意見いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。以上となります。

北委員長 はい、ありがとうございます。

それでは、ご意見等いただければと思います。

青柳委員いかがでしょうか。

青柳委員 私達は四ツ葉会として、いろいろな講座を行っているのですが、ほとんどは健康づくり課の第3次食育推進計画に基づいたレシピを作って市民の皆様に伝達する講座を開きました。今までだと皆で作って食べるというところでしたが、今年度は作って食べる事ができないので、皆さんに見ていただいてデモンストラーションだけの座学を行いました。農業水産課とは、今まで藤育という事業があったのですが、見て食べないで座学だけというのは、皆さんに伝わるのかというのが、こちらとしてもわかり辛かったので、一緒に食べるのが難しいのであれば、皆さんに農水産物を配布するとか、何か出来たらよいなと思いつながら、次年度どのようにしていけば良いか悩んでいるところです。

北委員長 ありがとうございます。
レシピコンテストを提案されていましたが、交流はできないでしょうか。

青柳委員 私たちはグループでレシピを作っていますが、レシピコンテストは市民の方と共同なのか、どのような形になるか見えないので、私たちも応募して良いのかというところなのですが。

北委員長 その辺、事務局から何か。

事務局 (安部川) まだ詳細が決まっていないと思いますので、もし出させていただいたら、審査員側なのかわからないのですが、健康づくり課のほうでまずは大まかなところは検討していく。その中で部門として地産地消、地元の農水産物を使用したレシピも入れてい

ただけないかを検討いただいているところになりますので、これから詰めていくことになります。どのような方が応募できるかは、これからになるかと思えます。

北委員長 具体的な内容というよりも、方針としてこんな感じでせつかく地産地消協議会で謳うのだから、ここと連携して進めていってはどうかということだと思えるのですけれども。

事務局
(安部川) このような食育施策・健康施策、あと四ツ葉会さんとは今までも連携させていただいていたので、当然レシピというところでは、市のホームページでもレシピを情報発信させていただいておりますので、引き続きそういったところで四ツ葉会さんとは連携させていただきたいというところと、食育施策・健康施策、市のほうでも実施しておりますので、そういうところと積極的に連携を図りながら、地産地消のアピールをしていきたいとは考えております。

斎藤委員 うちも小学生の娘がおりまして、学校の給食で地産の物が出たとか、農園に話を聞きに行つて、農家の方の話を聞いてきた事を家で話してくれますので、やっぱりそのような機会があると、やはり子どもとしても地元で作っていると思わなかったとか、食べ物に対して大事に思う気持ちがすごく育つのかなと思うので、良い機会だなと思うのですけれども、やっぱり回数的に1年に1回とかあるか無いかという部分であったり、幼稚園の娘もいるのですが、幼稚園の給食なののですが、さすがに幼稚園でそういった話は全く、藤沢産だったりとか農家の方のというのはほとんど聞かないので、やっぱり小さい子だったり、中学生にそのような話を継続的に小さいころからたくさんお話を

聞かせていける機会があったら良いのではという部分と、取り組みやイベントとして地産地消って良いねという話になるのですが、やっぱり継続して行動に移そうとした時に藤沢産の物を買に行けるかという、自分の手に届く機会が少ないのかなという実感がありまして、家が藤沢市役所から近くないので、マルシェに行くところもなかなかできないですし、朝市を月何回かやっていることを聞くのですが、朝買いに行くことも難しい状況なので、もう少し身近で地元の物を手に取る機会がもう少し増えるようなことが、やっていけたら良いのかなと思っています。

北委員長 ありがとうございました。
何かコメントありますか。

事務局 イベントの開催というところでは、今までは農業・畜産業・水産産業を一体とした大きなイベントを開催していくということで、考える事が多かったのですが、なかなかコロナ禍では大きなイベントは難しいので、各地域でイベントを開催して、藤沢の農水産物を知っていただく機会を増やしていく必要があるかなと考えております。

あとその他にですね、長期的な施策の話にもなるのですが、今、斎藤委員からお話のありました量販店等において、藤沢の農水産物のコーナー設置をしていただいで、身近な場所で購入できる機会を増やしていくことは以前から目標設定してやっておるところでありますので、そこについては第5期計画でも委員の皆様のご意見を踏まえた中で、更に推進できるように取り組みを進めていきたいと思っておりますので、またご意見等いただければと思います。よろしく願いいたします。

北委員長

ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

なかなか地元産をといても、「どこで買えるの？」とよく言われるのですが、量販店と連携していくということです。

部会員として金井委員と大嶋委員いらっしゃいますが、ご意見いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、3つの施策について検討しましたので、最後に長期的に取り組む課題について、ご意見あればお願いします。

かいつまんで説明をお願いします。

事務局
(安部川)

長期的な施策のところについて、ご意見いただければと思います。50ページの情報発信のところですね、どのような情報発信が効果的なのか皆さんからご意見いただきたいと思います。

一つはLINEでの周知は今後検討していきたいと考えています。あと51ページの利用推進店の充実がありまして、利用推進店の報告をさせていただきましたが、なかなか登録件数が増えない状況にありますので、利用推進店になった時のインセンティブをどのように付ければ良いのかご意見いただければと思いますので、よろしく願いいたします

あとは量販店での購入というところで、身近な場所に購入できる場所を設置していく際に、ミニのぼり旗や藤沢産のシールを貼っていただいて対応しているのですが、こういう周知をしていったほうが良いのではというものがございましたら、ご意見いただければと思います。

北委員長

3点ありました。

情報発信の方法。それから利用推進店にどのようなインセンティブを与えれば良いか。量販店での地元産のPR方法。

ご意見いただけますでしょうか。

長期的に取り組むということですので、具体的なイメージ沸きにくいかと思いますけど。

林委員 いいですか。

北委員長 林委員お願いします。

林委員 情報発信の仕方、LINEは身近に使っているアプリだと思うので最適だと思うのですが、LINEを登録して情報をもらっていくにあたり、市民にとって得なことが情報以外にあると良いなと思って、今だとふじキュンのLINEスタンプ既にあると思うのですが、地産地消のオリジナルのものを作って、登録してもらおうと、オリジナルの地産地消のスタンプもプレゼントのようなことも合わせてやっていくと良いのかなと思いました。スタンプがどれくらいダウンロードされているか把握していないのですが、私は使っています。藤沢市近くの方はふじキュンの事よく知っていると思うのですが、全国的な認知度でどれくらい上位なのかはわかりませんが、可愛いしシティプロモーション課と連携しながら、そのようなこともできたら良いなと思いました。ほかにもいろいろありますが、LINEが一番使いやすいと思います。

北委員長 ありがとうございます。

事務局
(安部川) LINEにつきましては、藤沢市が情報発信をしておりますので、その中に地産地消という項目を組み込めないかということで、来年度検討していきたいと考えております。

ふじキュンとのコラボ、今のスタンプについては、シティプロモーションと検討していきたいと思いますが、ふじキュンと藤沢産農水産物のコラボ缶バッジを作って、先日行われた「みなと春マルシェ」等でもガラポンの景品として配布しており、子ども達には人気なので、そういった形で何か林委員がおっしゃるような、LINEのスタンプのようなものもシティプロモーション課と連携して実施できればと思いますので、そこについては今後検討していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

北委員長 佐藤委員お願いします。

佐藤委員 食べ歩きマップについて例えば、5店舗を制覇すると、LINEのスタンプが自動的に来るとか、詳しくないのでわかりませんが、お店側も地産地消に取り組むというより、身近な生産者と食材について話し合いながら、いろいろな料理を作ることには楽しいと話をされていたので、少人数や一人でもお店に行くきっかけと言ったらおかしいのですが。なかなか一人で入っていくのは恥ずかしいということもあるので、背中を押してくれるような形になると、せっかく登録してくださっているお店にお客さんが来るっていうのは、逆に数もわかるのかなと。やり方をご提案できなくて申し訳ないのですが、そのような形も考えていけると良いのかなと思いました。

事務局 (安部川) 今、佐藤委員が仰るとおり、何店舗か回るとプレゼントするといった機会が作れば、利用推進店に行っていただく機会も増えると思いますので、どのような形で実施できるかも含めて、今後検討させていただければと思います。

北委員長 他いかがでしょうか。だいぶ時間が過ぎてまいりましたので、特に無ければここまでとさせていただきます。ただいま出た意見、来年度の事業計画というのは、予算調製について、事務局の方でうまく活用していただければと思います。

それでは、全体と通して委員の皆様、何かございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

事務局
(福岡) ただいまでのご意見等を基に令和4年度の事業計画・予算を作成してまいります。今まで事業を行った中で令和3年度を行った中でよかったものにつきまして、また継続してまいりたいと考えております。その他にご意見等ございましたら、4月8日までに資料6に記載のあります農業水産課までご連絡いただければと思います。よろしくお願いいたします。

北委員長 以上をもちまして本日の議題はすべて終了いたしました。皆様のご協力により、会議が円滑に有意義に進行できましたことをお礼申し上げます。

それでは、進行を事務局にお返しいたします。

事務局
(安部川) ありがとうございます。

最後に、中山経済部長より挨拶をいたします。

中山経済部
長 皆様長時間にわたりまして、また、年度末の大変お忙しい中、ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。おかげさまをもちまして、第5期の藤沢市地産地消推進計画を策定・

確定させていただくことができました。具体的な方策につきましては、ただいま色々ご議論をいただき、忌憚のないご意見を頂戴いたしましたので、先ほど申し上げましたとおり、新年度に向けましてですね、具体的に、また有効な実施方法を検討してまいりたいと思います。また合わせて、今ご案内にもございました、4月8日までにまたご意見等ございましたらいただければと思います。おかげさまでこの第5期計画ができましたので、これをもとに令和4年度もしっかり地産地消を推進してまいりたいと思います。大変推進計画の策定にあたりましては、今年度何回も協議会を開催していただき、意見をいただきました。誠にありがとうございました。長時間にわたりましてありがとうございました。

4 閉会

事務局
(安部川)

それでは、以上をもちまして令和3年度第3回藤沢市地産地消推進事業実行委員会を閉会といたします。本日は、長時間に渡りありがとうございました。

また、次の協議会及び実行委員会の予定ですが、新年度に入りまして5～6月頃を予定しております。後日詳細な通知をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

なお、本日、事務局でご用意させていただきました藤沢市地産地消推進計画、右上に会議用のテプラが貼ってあるものにつきましては、返却となりますので、机の上にそのまま置いておいていただきますようお願いいたします。

終 了